

# 博物館学講座(課程)の現状と問題

橘 昌 信

## はじめに

博物館学講座ないし課程を開講している大学で組織されている「全国大学博物館学講座協議会」では、5年に1度開講実態調査を行ない、その調査結果を報告している。最近では51年10月に実施されており、その調査報告書が52年3月に刊行されている。そこで前回の46年9月に行なわれたものと比較しながら過去5年間における学芸員養成内容の実態の一部を明らかにすると共に若干の問題を探ってみることにしたい。

## 開講大学

昭和27年に最初の博物館学講座が私立大学において開講されて以来、その後、年を追うごとに開講大学の数は増加の一途をたどっており、51年10月の時点で67大学において設置されている。前回の46年の調査では39大学で、過去5年間で、それまでの7割強にあたる28大学が新設されており、急激な増加の傾向が認められている。

より多くの大学において博物館専門の職員としての学芸員資格を取得する機会が与えられる事は望ましい傾向であり、何かにつけて立ち遅れている生涯教育や博物館への関心を昂揚する意味からも本来的には歓迎されるべき姿として受け止められよう。しかしながら一面では、大学における博物館学講座(課程)の年々の急激な増加は、多くの問題を新たに生み出し、講座それ自体の基本的なあり方が問われていることも認めざるを得ないであ

ろう。

開講大学のうち国公立は19校、私立は48校で、全体の約72%が私立大学において開講されている事になるが、これは私立大学の絶対数が多いことに起因していると思なされる。地域別では関東、近畿では全体の $\frac{3}{4}$ にあたる50大学が集中しており、これも大学数からすれば当然のことであろうが、九州、沖縄では1大学のみで同地域の大学数の比率からすれば極めて低い状況と言え、地域による隔りが窺える。

## 開講学部と養成目的

次に開講大学における開設学部は私立大学においては文学部に34大学と圧倒的に多く68%を占め、次の家政学部8%と大きな開きがみられる。一方、国公立の大学では全体の6割が教育学部と文学部に設置されている。このように私立・国公立共に、特に文学部に大きなウエイトが置かれており、理科系の学部は私立大学に僅か3大学みられるにすぎない状況である。たゞ29大学において受講生の範囲を大学の全学部の学生を対象としていることから、その道は開かれているが、実際には資格に必要な関係科目などの受講問題が残されているようである。結局この文化系と理科系のあまりにも大きな隔たりは、各開講大学の「学芸員養成目的」の調査によってさらに明確に把握されるのである。

学芸員養成目的を人文系博物館においている大

学が79%と8割に近いのに対して、自然系は9%と全体の1割に満たない値である。他は美術館など特定の館を目的とするものや、学芸員の基礎資格においているものなどがみられる。

#### 担当代表者および博物館学担当者

人文(文科)系への傾倒は、博物館学講座(課程)担当代表者の専門分野にも表われており、考古学・歴史学・美術関係を専門分野とする大学が多く、担当代表者の8割近くを占めている。逆に博物館学を専門にしている担当代表者は極めて少なく2名のみである。この状況は単に人文系に重きが置かれていることを示唆するのみにとどまらず、現在の博物館学講座(課程)の基本的な姿勢の一端を示すものであろう。すなわち大多数を占める考古・歴史・美術の専門分野は学芸員養成の選択科目であり、一方の博物館学は必修科目とされているのである。このことから博物館学を専門分野とする担当代表者の確保が、講座(課程)の組織や内容の充実に直接関連すると考えられるだけに重要な問題の一つとされよう。また「博物館学」が半数以上の35大学においては非常勤講師によって講義されている事実や担当者で博物館学を専門にしている教員が全体の4割弱であることも博物館学関係の専門分野の未開拓な一面を示めしていると言えよう。

これらの事は、5年前すなわち46年度の実態調査との比較によってその一端をより明らかにすることができるであろう。

46年度の時点で39大学において博物館講座(課程)が開講されている事は前に述べた通りである。地域別では関東、関西への集中の割合は一段と強く82%を占めており、51年の75%と比べるとこの5年間で地域による偏りは少しいであるが緩和される方向を示めしている(1図)。し

かし開設学部では、理科系の2大学が僅か増加したのみで残りの26大学はいずれも文科系であり理科系の学芸員養成についての道は開設大学について言えばほとんど変化なく今日に至っていることになる(2図)。

担当代表者の専門分野ではやはり考古学・美術歴史の順で多く33名中の22名を占めているもの、全体の比率では51年を10%強下回っているので46年以後に考古・美術・歴史を専門分野する人の割合が増加したことになる。一方博物館学を専門にしている担当者は3名と1名多く、全体の占める割合からすれば9%で、51年の4%より高い値が求められ皮肉な状況と言える(3図)。次に必修科目である博物館学の担当者についての比較を行ってみると、51年では非常勤が約58%近くを占めているのに対し、その半分以下の26%で、開講大学の7割強は専任の講師で行われていたことになる。しかしこの点については専門性の立場からみた時、手はなして喜ばれる状態ではあるまい。ちなみに常勤、非常勤と区分せず科目の専門分野からの検討を加えてみると、博物館学を専門分野とする講師による担当は、前回の時点において44名中9名で20%、これに対して今回の調査では34%と博物館学を専門分野とする担当者の増加がみられるのである(4図)。しかしながらそれでいてなお全体の3割程度で、しかも半数以上が非常勤講師によってまかなわれている実況ではやはり今後の問題とされよう。

#### 付属博物館などの諸施設

さて、大学における付属博物館は付属図書館と共に教育・研究機関の内容の豊かさを示すものであり、同時に学芸員養成課程での「博物館実習」の実践の場として極めて大切な施設である。その施設については過去5年間どのような推移を見ることができようか。46年では39の開講大

学中、23大学では付属博物館、資料室、それに準ずる施設を有しており、その内9館は博物館相当施設として登録されたものである。これに対して、51年の段階では開講大学が28校も増加しているのに施設を有する大学数の増加は6校であり、全体の4.3%という低さである(第5図)。付属博物館やそれに類する諸施設の不足の傾向はむしろ増大しており、博物館実習受講生の増加によってさらに真刻な問題として立ちはだかっているのである。

#### 資格取得者と就職者

博物館学講座(課程)開講大学における受講者の数は年々増加の一途をたどっており、その増加の様子は過去5年間の開講大学数のそれを上廻る傾向がみられる。この急激な増加は学芸員資格取得者数に端的に示めされている。昭和47年~50年の4年間で何と5,711名の取得者が出ているのである。ちなみに昭和41年~45年の5年間では3,576名である。単純計算ではそれぞれ1年間に1,428名と715名となり、調度2倍の増加となる。

受講者および取得者の数が増加の傾向にあることは、最初に述べた様に観迎されるべき姿であろう。しかしこれに対処すべき最善の方法がそれぞれの開講大学において考えられなければならないことは勿論であり、同時に開講大学全体の基本的な問題として真剣に受取める必要を痛感するのである。

受講者および取得者の増加は資格取得者数に対する博物館関係の就職状況を考慮する時一段とその根本的あり方が問題視されよう。前回の実態調査報告書では就職についての適確な解答が出されていないが、その傾向の把握は可能であり取得者数の2.5%前後が博物館関係に就職していると見なされ、51年度ではその実数は100名弱と前回

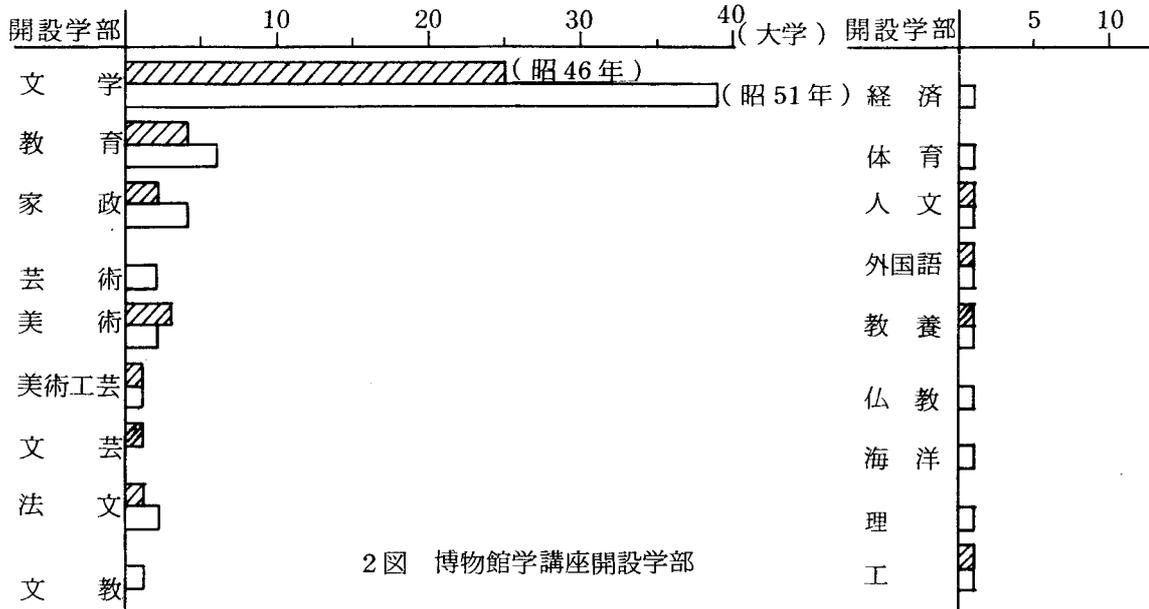
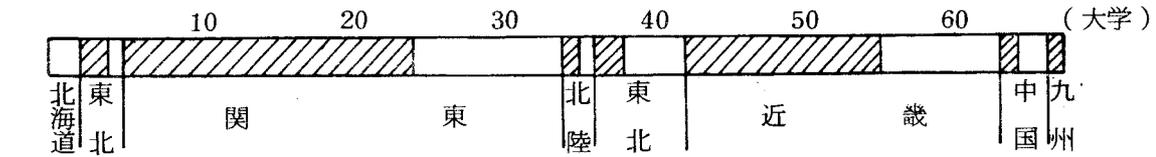
とほぼ同じであるが取得者数に対する比率では約1.6%となっている(第6図)。いずれにしても学芸員の資格を大学で取得しても、卒業後博物館関係の職場に就職できるのは極めて稀なケースということになる。この様な状態を見る時、改めて学芸員有資格とは何なのかと言う素朴な疑問が出されるであろうし、これはそのまま大学における博物館学講座(課程)の存在の問題に関連する一面として把握されるであろう。

#### おわりに

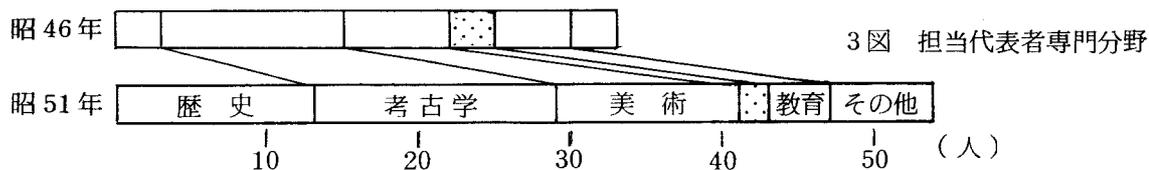
46年と51年の全国大学博物館学講座開講実態調査報告書から開講大学数の増加や開設学部 of 著しい傾寄り、および講座(課程)担代表者や必修科目である博物館学の担当者における専門性ならびに専任性、付属施設、さらに受講生、資格取得者の増加と就職など、現状の一部を概観したわけである。全体的な状態としては5年間で解決の方向へ向っていると見なされる面は少なく、むしろ問題はふくれあがって、文字通り一つの曲り角に直面していると思われるのである。この現状が博物館学講座(課程)のあり方や内容のすべてを示めすものではなく、それぞれの開講大学でかかえている当面の問題の一面かも知れないし、また開講大学独自の力で早急に解決され得るものでもないかも知れない。しかしながら今後の大学における学芸員養成の基本的あり方に直接結びつく要素を有していることは誰の目にも明らかであろう。

今こそ、大学における博物館学講座(課程)の教育の目標や目的、さらに学芸員の養成等についての基本的な姿勢が問われており、それについての前向きの姿勢での充分なる検討なしでは、大学における博物館学講座(課程)開講の存在は色あせたものになるので必定であろう。

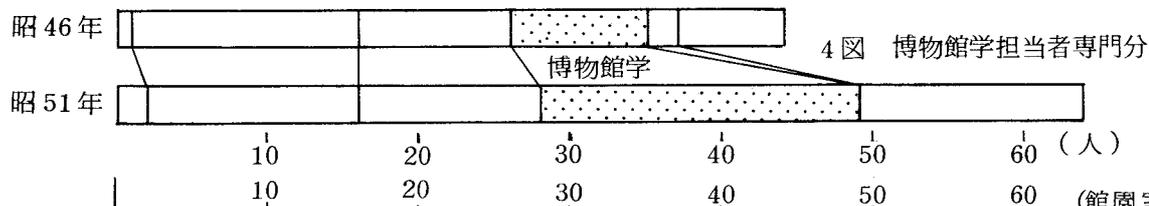
1図 地域別開講大学数



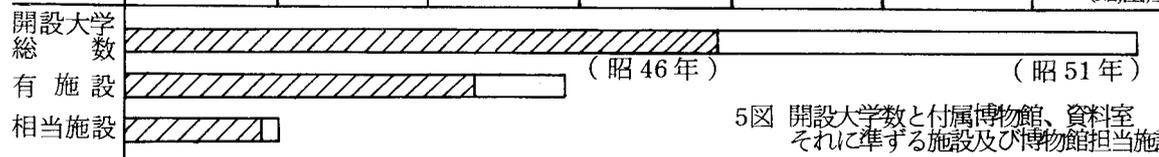
2図 博物館学講座開設学部



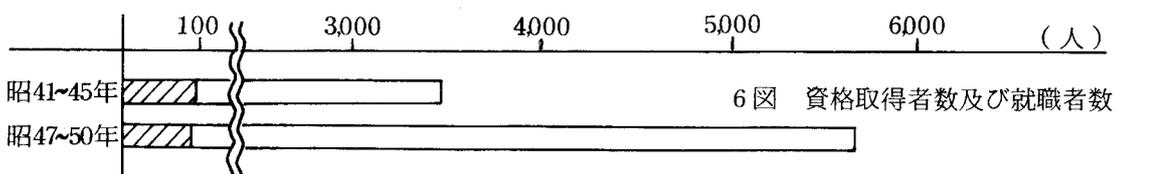
3図 担代表者専門分野



4図 博物館学担当者専門分野



5図 開設大学数と付属博物館、資料室 それに準ずる施設及び博物館担当施設



6図 資格取得者数及び就職者数